

① 学習指導案

プログラム	No. 5 「地域のカルタをつくろう」
単元名 (全 時間)	大岡川たんけんたい ～生き物カルタを作ろう～ (全50時間)
学習のねらい	身近な地域を流れる大岡川に探検に行き、流域の自然や植物、生き物に注目して、調べたり、話を聞いたりする活動を通して、生き物カルタづくりを行う。そのカルタを通して、他学級児童や保護者、地域の方と身近な地域の自然環境の素晴らしさを共有する。
学習内容	1：大岡川へたんけんに行き、生き物をとろう 2：大岡川でみつけた生き物や植物を調べよう 3：生き物カルタを作ろう 4：生き物カルタを通して交流しよう
参考資料 準備品 実施場所等	・生き物採集用の道具、デジタルカメラ ・「氷取沢市民の森」、「大岡川小川アメニティ」

② 事業実施報告書詳細

別紙 学習指導案にて詳述

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大岡川に何度も探検に行き、大岡川の自然や植物、生き物に実際に触れる体験活動を行った。児童はその体験から興味・関心を広げ、調べたり、ゲストティーチャーから話を聞いたりする学習に主体的に取り組むことができた。 ・カルタづくりの際は、読み札と絵札の内容がしっかりと一致し、楽しく遊べるよう工夫した。絵を見て伝えたいことが分かるか、何度も確かめて、仕上げを行った。
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天候に左右される探検活動であった。(氷取沢市民の森への探検は、6月8日実施予定であったが雨天のため6月30日に延期となった。) ・自然を体験する活動として、夏の暑さによる熱中症対策や、冬の寒さによる防寒対策など児童の体調に気を配った。
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷取沢市民の森や大岡川の豊かな自然を全身で感じ取っていた。 ・「また行きたい」、「家族で行きたい」と話していた。 ・「魚とりや木の実ひろいなど、自然遊びをしたい」と話していた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- ・教員自身も、市民の森の自然の素晴らしさ、そしてその自然を全身で感じながら学ぶ学習の素晴らしさを再認識した。
- ・今年度の本校重点研究の発表にて、本活動の取り組みを全職員に伝えることができた。職員の大岡川への意識が高まっていると感じる。
- ・児童とその家族、そして職員が地域の団体「大岡川funクラブ」の活動に参加し、大岡川の自然や生き物とふれあう体験活動を行った。これからも本校は「大岡川funクラブ」との連携を大切にして活動していくとよいと思う。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

- ・本校4年2組が大岡川流域に捨てられているゴミに着目して、ゴミを減らすための学習活動を行っていたので、連携して、情報交換をしたり、共に探検に行ったりした。3年1組児童は、4年2組の行っていたゴミに着目した活動に興味をもったようだ。
- ・カルタづくりの際に、採集した生き物の種類を調べてカルタづくりを行ったが、分類の仕方や、正式な名前など、確かめることが難しいと感じた。専門家に密な連絡をして確認するとよいと感じた。

大岡川たんけんたい ～生き物カルタをつくろう～

No.5 「地域のカルタをつくろう」

横浜市立さわの里小学校 3年組 品川 壮

1 単元について

活動に向かう子どもの思いや願い

3年生から始まった社会科の学習で、まちたんけんに行き、子どもたちは氷取沢市民の森に高い関心を示した。特に大岡川にいる魚や水生昆虫などに興味をもち、「大岡川で生き物をとりたい」という思いをもつようになった。初めてのさわの里タイムでは、自分たちの思いや考えで学習を進めることに、だんだん慣れてきているようである。

雨天や猛暑で校外学習の計画が進まないことも経験し、自然の面白さや厳しさを感じているようである。

学校の「さわっち金魚広場」の池で魚とりを行い、池から、「金魚」、「メダカ」、「ヌマエビ」をとることができた。希望する児童は自分の水槽に「メダカ」か「ヌマエビ」を飼育し、観察をしている。

発揮を期待する力と材について 〈材について〉

さわの里小学校の学区の中には氷取沢市民の森という豊かな自然環境がある。そんな氷取沢市民の森へまちたんけんに行き、その中心を流れる大岡川の源流域に子どもたちは関心を持つようになった。大岡川をのぞくと魚が泳ぎ、トンボやチョウなどの昆虫がとび、生き物がたくさんいることがよくわかる。

3年生の理科で植物や昆虫の構成や生態を学んだことから、身の回りにいる生き物にも興味を広げていることを期待する。

その活動の中で、「生き物カルタ」づくりを行うことで、もっと詳しく調べたい、もっと詳しく絵を描きたい、自分のカルタをより分かりやすくしたい、と意欲的、探求的にカルタづくりをしてほしい。

単元目標

氷取沢市民の森や大岡川で生き物をとったり飼育したりすることを通して、自然の中にある生き物の特徴や生態を理解し、その特徴や生態をカルタにして表すことを考えながら、地域の人たちに身の回りの生き物のことを進んで伝えようとするができるようにする。

学習内容

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生命現象の神秘や不思議さと、そのすばらしさ。	<ul style="list-style-type: none"> ○生命は種や個体による特徴や違いがあり連続するものでもあることや、人々のくらしの中で活用されるものであることが分かる。 ○身近な生命のために活動に取り組んでいる人々は、思いや願いを実現しようと行動していることが分かる。 ○生命や自然と人間との関わりを良好にするには、生命のために自分ができることがあることを知り、日ごろからその生命を考えた生活が必要であることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な生命への課題を発見し、その課題を解決するための方法や手順を考える。 ○身の回りの自然や地域での生き物の採集活動や、調査活動から目的にあった情報を得る。 ○課題解決に向けての予想を立て、必要な情報を比較、関連、分類するなどして情報を整理・分析する。 ○自分の思いや考えをまとめ、必要に応じて適切な方法で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然や環境に進んで関わり、生命を大切にしようとする。 ○身近な自然の生命に関わる方に心を寄せ、その思いを理解、共感し、他者と協力して問題解決に取り組もうとする。

2 単元構想

大岡川たんけんたい ～生き物カルタをつくろう～

(全 50 時間 総合)

1 氷取沢市民の森へ行こう (総合 6 時間)

- 社会科のまちたんけんの活動をもとに、「さわの里タイム」のイメージを共有し、意欲をもつ。
- 自分たちがこれから調べたいこと、したいことを話し、これからの活動を考える。
- 氷取沢市民の森、大岡川へのたんけんを計画し、そこで行いたいことを話し合う。

まちたんけんで行った氷取沢市民の森は自然がいっぱいだった。市民の森の真ん中を大岡川が流れていた。大岡川小川アメニティでは魚が泳いでいるのをみたよ。大岡川へ生き物をとりにいきたい。

2 大岡川で生き物をとって飼育しよう (総合 20 時間) <本小単元>

- 大岡川でとれた生き物を学校で飼育しよう。
- 生き物の様子をよく観察して、生態や特徴、飼育の仕方を調べよう。
- ミニ水族館をつくって学校みんなにみてもらおう。 <本時>
- ミニ水族館づくりをふりかえろう。

大岡川で生き物をとったよ。サワガニやヌマエビがたくさんとれたよ。学校で飼育して、よく観察しよう。飼育の仕方や、生態・特徴を調べてまとめよう。生き物が過ごしやすい環境を考えよう。生き物を学校みんなに見てもらいたいな。生き物をろうかに展示して、ミニ水族館をつくろう。ミニ水族館にきてくれたお客さんから感想をききたいな。ミニ水族館づくりをふりかえろう。

3 「生き物カルタ」を作ろう (総合 14 時間)

- 3年1組のオリジナルカルタを作ろう。
- どんなカルタを作ったらよいか考えよう。
- 生き物の事をもっと調べよう。
- 生き物の情報を詳しい人に確認をしよう。

いろはカルタで遊んだよ。遊びながら言葉が覚えられるね。自分たちでもカルタを作りたいね。3年1組オリジナルカルタを作ろう！どんなカルタを作ろうか。生き物の飼育をたくさんしているので、生き物カルタを作りたい。生き物の事を正しく伝えたいね。生き物に詳しい人に確認をしよう。

4 「生き物カルタ」で交流しよう (総合 8 時間)

- できた「生き物カルタ」をだれに遊んでもらうか考えよう。
- 地域の人にも遊んでもらいたいな。
- 遊んでもらったら感想を聞きたいな。

授業参観で保護者さんにカルタを発表したいね。となりの2組さんにも遊んでもらいたいね。たんけんに来てくれた地域の人たちにも紹介したいね。みんなカルタ遊びを楽しんでくれたよ。大岡川にはたくさんの自然があり、生き物がいることを伝えられたよ。

5 活動をふりかえろう (総合 2 時間)

- 大岡川の生き物の飼育、調査でわかったことをまとめよう。
- 自分たちの活動をふりかえろう。

大岡川に何度もたんけんに行き、自分たちにとって身近にある大切な自然環境であることがよくわかった。ゴミがすてられているのを見つけた。きれいな大岡川をまもっていきたくと思った。

3 小単元構想

(1) 小単元目標

大岡川でとれた生き物を飼育し、ミニ水族館をつくる活動を通して、生き物の生態や特徴を理解し、その生態や特徴などの情報を比較、分類、整理して適切に表現しようとしたり、身近な自然や生き物に進んで関わろうとしたりすることができるようにする。

(2) 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な地域には自然や、動植物など様々な魅力的なものがあることに気づき、その生態や特徴を理解している。	・身の回りの自然や地域での生き物採集活動や観察活動から、その生き物の生態や特徴、飼育するための情報を得て、比較、分類するなどして情報を整理している。	・身近な自然や生き物に進んで関わり、他者と協力して問題解決に取り組もうとしている。

(3) 小単元展開

2 大岡川で生き物をとって飼育しよう ⑳

学習課題

○学習活動

！期待する変容！

大岡川でとれた生き物を学校で飼育しよう。⑤

- 大岡川に生き物をとりに行こう。
- とれた生き物を学校で飼育しよう。

- ・大岡川に生き物をとりにいったら、「サワガニ」、「ヌマエビ」、「ザリガニ」がとれたよ。
- ・種類ごとに分けて、飼育しよう。
- ・どうやって飼育したらよいのかな？
- ・生き物を飼育するには、生き物の事をもっと調べたいね。

生き物の様子をよく観察して、生態や特徴、飼育の仕方を調べよう。⑤

- その生き物の特徴や飼育の仕方を調べよう。
- 生き物の様子をよく観察しよう。

- ・学校図書館や iPad で生き物のことを調べよう。
- ・正しい名前や生態や特徴、飼育の仕方などたくさんのが分かってきたよ。
- ・わかったことをまとめよう。
- ・飼育している生き物のことを学校の人に伝えたいな。

ミニ水族館をつくって学校の人にみてもらおう。⑧ <本時>

- とれた生き物のみりよくを学校の人に伝えたいな。
- どんなみりよくを伝えようか。
- ミニ水族館をつくって学校の人にみに来てもらおう。 <本時>

- ・ミニ水族館をつくって学校の人にみに来てもらおう。
- ・みんなに生き物のみりよくが伝わる水族館にしたいな。
- ・どんなみりよくを伝えたらよいかな？
- ・どのように並べたらよいかな？説明はどのようにしよう？分かりやすく伝えたいな。

ミニ水族館づくりをふりかえろう。②

- ミニ水族館のお客さんの反応や言葉をふりかえろう。
- ミニ水族館をつくったことでどのようなことが伝えられたのか話し合おう。

- ・生き物が動いているところをお客さんがよく観察してくれたよ。
- ・大岡川でこんなに生き物がとれることにおどろいていたよ。
- ・つくった絵や説明を残しておきたいね。

4 本時について

<前時> 2年2組さんに「大岡川生き物ランド」を見に来てもらい、生き物を見せながら説明をする活動を行った。

(1) 本時目標

「大岡川生き物ランド」で説明する絵やポスターの見直しを通して、生き物の特徴をより理解し、その生態や特徴などの情報を適切に表現しようとして、生き物に進んで関わろうとすることができるようにする。

(2) 本時の展開

○主な学習活動・予想される子どもの反応	・教師の手立て ★評価規準
<p>① 本時の課題を確認し、解決の見通しを立てる。</p>	<p>・学習課題をどのような手順や方法で解決していくか、見通しをもてるようにする</p>
<p>生き物のみりよくがより伝わる「大岡川生き物ランド」にバージョンアップしよう</p>	
<p>② 伝えたい生き物のみりよくを再確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然の中で自分たちの手でとれるというみりよく。 ・おもしろい動きやしぐさというみりよく。 ・手でさわってよく観察できるみりよく。 <p>③ そのみりよくをより伝えるには、さらにどんなバージョンアップが必要か2年2組への発表のふりかえりを元に話し合おう。</p> <p>(生き物を見せるくふう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物がよく見えるようにケースの中を見やすくしよう。 ・生き物が動いているすがたを見てもらうにはどうしたらよいか。 ・もっとさわってもらうにはどうしたらよいか。 ・エサをあげてもらったらどうか。 <p>(ポスターのくふう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物クイズはみんな楽しそうに参加してくれた。 ・生き物の正式な名前や生態や特徴が正しく書かれているか確かめよう。 ・だれにでも分かりやすく、読みやすいように説明を書こう。 <p>④ 生き物を見せるくふう、ポスターのくふうをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水槽の中を整理してもっと見やすくしよう。 ・正式な名前やとくちょうを正しく分かりやすく書こう。 ・絵や言葉の表現を見直し、より伝わるように工夫しよう。 ・直した説明を友だちと見せ合って確認し合おう。 <p>⑤ 活動の中から見えてきたことをまとめ、次回の課題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の2年1組にはバージョンアップした「大岡川生き物ランド」を見に来てもらおう。 	<p>・話の内容が明確にできるように、書画カメラ等を活用し、テレビで画像や資料を映す。</p> <p>・でた意見をもとに、他の意見との共通点やちがいに注目できるよう助言する。</p> <p>・より具体的な気づきの手立てとして、写真や図鑑の資料などを活用する。</p> <p>★生き物展示の内容を見直す活動を通して、生き物の特徴について理解し、正しい情報での大岡川生き物ランドづくりを大切にしようという思いをもちながら、よりよい大岡川生き物ランドづくりについて考えている。 (思考・判断・表現/発言・振り返りシート)</p>

5 研究主題との関り ～学ぶ楽しさを実感できるようにするための手立て～

【主体的に学習を進めている実感をもつために】

○実際に自然の中で生き物をとって飼育する

実際に自然の中で生き物を取り、その生き物を飼育することを通して、その生き物の生態や特徴をよく観察して理解したり、主体的に調べたその情報を整理したり、生き物に進んで関わろうとすることができる。

【学ぶ楽しさを実感できるようにするために】

○社会科・理科・国語科とのつながり

社会科の「地域の様子」の学習のまちたんけんから、氷取沢市民の森、大岡川に興味をもち、理科の「生き物をさがそう」、「植物の育ちとつくり」、「こん虫のかんさつ」で学んだ植物やこん虫を観察・理解する力を活かしての学習活動としている。また、「かるたづくり」の活動から国語科の「ことわざ・故事成語」の学習につなげることができる。

【探求課題・材に対する概念的知識を深めるために】

○大岡川ファンクラブSさんとのつながり

大岡川ファンクラブは司書の寺嶋先生が教えてくれた団体。南区を拠点として、大岡川の生き物を調査している。年に数回、大岡川源流の氷取沢市民の森での生き物観察の活動を行っており、そのメンバーのSさんは氷取沢町の方である。Sさんは生き物に詳しく、様々な生き物の生態や特徴について教えてもらうことができる。

○景観まちづくり助成事業

国土交通省の「景観まちづくり学習」助成事業に横浜市都市整備局景観調整課が横浜市立学校によびかけ、毎年20学級程度の事業が助成されている。本学級は校長の勧めで事業に応募し、助成が決定している。助成の内容は「地域カルタをつくろう」で助成の費用で本学習の活動費用にあてることができる。



カルタの例 大岡川水辺の生き物



市民の森で見つけた鳥



カルタ遊びのようす